

歴史を変えた100冊の本

驚



故きを温ね、新しきを知る事

(分類) 028

人々は歴史を書物によって記録し、読み継ぎ、学んできました。目次にはタイトルが年表のように並び、見開きに1冊ずつ、貴重な図版と共に紹介されていて、読みやすくなっています。イソップ寓話から世界的ベストセラーまで、辞典・思想・科学・文学に至るまで幅広く網羅されています。装丁も美しく、贈り物にしても喜ばれる1冊だと思います。歴史に思いを馳せながら、ゆっくり読書はいかがでしょう。

スコット・クリスチャンソン／著
コリン・ソルター／著、藤村 奈緒美／訳
エクスナレッジ

(伏見中央図書館司書)

野の医者には笑う 心の治療とは何か？

驚



心が危ない時、何に頼りますか？

146.8

太古の昔からこの世に存在するスピリチュアルやヒーリングの世界に、博士号を持つ臨床心理士の著者が飛び込み、次々と治療を受けて回った記録である。怪しげな治療法にびっくりしたり、その歴史に納得したり、ヒーラーと著者の底抜けに明るい関係に心を動かされる。大冒険をしつつ冷静な研究者の目でヒーリングと臨床心理学を見つめた驚きのいっぱい詰まった「笑える学術書」なのである。

東畑 開人／著
誠信書房

(吉祥院図書館司書)

つい話したくなる世界のなぞなぞ

驚



なぞなぞで世界を知ろう！

031.7

「口があっても、喋れない生き物、な～んだ」という韓国のなぞなぞは、儒教の影響で年上の人を尊ぶお国柄を知らなければ、「目下の人」という答えにたどり着くのは難しいでしょう。

その国の習慣や事情、時代背景などを楽しく教えてくれるなぞなぞ。思わぬ答えに驚いたり、感心したり。ガイドブックには載っていない一面を知り、世界の広がりを感じてください。

のり・たまみ／著
文藝春秋
(文春新書)

(東山図書館司書)

成功者はなぜ、「まあいい生き方」を実践するのか？

笑



苦しい時ほど朗らかに！

159

マスク着用で三密を避けて、窮屈な日々を過ごしている。でも、この窮地を乗り越えていくエネルギーを噴火させて成功を手に入れている人たちがいる。

成功をおさめ、幸せになる導きとなるであろう数々の珠玉の名言に安心した1冊である。感謝、朗らかさが欠かせないようである。難しく考えずに「笑う門には福来る」の気持ちで人生を歩もうと気づかせてくれる。

中野 博／著
川地 将人／著
現代書林

(吉祥院図書館司書)

居るのはつらいよ

泣

ケアとセラピーについての覚書



僕らの「居る」を脅かすのは誰？

146.8

理想に燃える若き臨床心理士のハカセが就職したのは、沖縄のデイケア施設。そこは「居る」が脅かされやすい人たちの「ただ、いる、だけ」をケアするふしぎの国。温かい視点、軽妙な語り口で記される、メンバーとスタッフが織り成す日常のエピソードを追いかけた先に待ち受ける黒い影。彼らだけじゃない、私たちの「居る」を脅かす真犯人とは？

社会問題に鋭く切り込みつつも、笑いあり涙ありの不思議な感動を呼ぶ学術書です。

東畑 開人／著
医学書院

(醍醐中央図書館司書)

縄文人に相談だ

笑



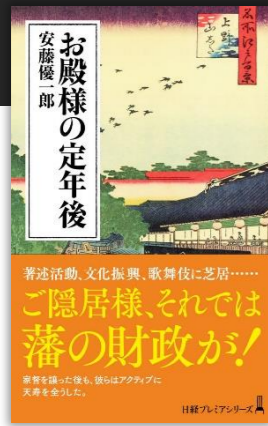
悩みはすべて「貝塚にポイ」！

210.25

現代人の悩みに、縄文人のような思考の持ち主である著者が答えてくれる本です。現代人とは異なる視点で悩みを捉え、思いもよらない回答をしているのがクスッと笑いを誘います。「貝塚」とは縄文時代のゴミ捨て場。その中へ悩みをポイっとすることで、一人で溜め込まないことの大切さを教えてくれます。コロナ禍の中でもやもやする気持ち、貝塚へポイっとしてスッキリしませんか。注釈も縄文人？らしい独特の解釈で、おすすめです。

望月 昭秀／著
KADOKAWA
(角川文庫)

(伏見中央図書館司書)



お殿様の定年後

驚

そうだったの!?ご隠居様

210.5

江戸時代。お殿様たちは隠居後、どんな生活を送っていたのか？ご隠居様のおうち時間って、一体…と、手に取ったこの本には驚きが詰まっています。有名な水戸のご老公こと水戸藩主徳川光圀。熱中しすぎて財政がひっ迫した原因は「旅」ではなく、実は…。今も昔も趣味があると強い!?5人の熱いご隠居様たちを紹介する一冊です。

安藤 優一郎／著

日経 BP 日本経済新聞出版本部

(移動図書館司書)



後悔しない子育て 世代間連鎖を防ぐために必要なこと

驚

愛情よりも大切なもの

367.3

虐待やDVを主に扱うカウンセラーの著者が、子ども時代のトラウマに苦しむ患者たちを診て「彼らが苦しまないためにはどう育てられるべきだったのか」を書いた逆説的育児書。

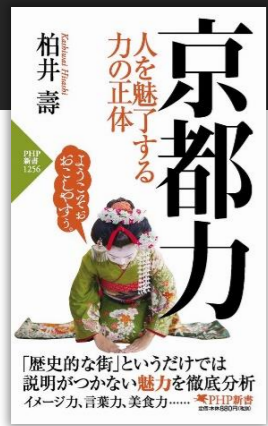
「褒め方・叱り方」「スマホ育児」「ママ友」「ジェンダー観」などの問題を、これまでにない視点で掘り下げる。

大人も子どもも不安に揺れる今の時代、大人は子ども達に何ができるのか？その答えに驚きと納得の連続でした。

信田 さよ子／著

講談社

(こどもみらい館子育て図書館司書)



京都力 人を魅了する力の正体

泣

腐っても鯛，コロナでも京都

291.62

今年6月、京都市が緊急事態宣言下の中、京都駅地下街を通った時、愕然とした。全店シャッターを閉め、通り抜けする人もまばらだった。京都の観光業は感染が収束しても元に戻るのか？コロナ前はインバウンドでにぎわっていたが、さすがに心配になってきた。しかし、心配ご無用。京都力は今今培われた物ではありません、と言うのが本書。おかげで、京都人としての自信とプライドを少し取り戻せた。

柏井 壽／著

PHP 研究所

(PHP 新書)

(久我のもり図書館司書)



世界のへんな肉

笑

本で堪能するご当地「肉」

383.8

気軽に異文化を体験できるご当地ものは、単調になりがちな日常をより豊かなものにしてくれます。本書は、まさしくめったに味わえないご当地モノ、世界各地で食されるお肉に注目した紀行文です。“サバンナの天使”の煮込みに“悪魔の使い”のカレー，“黄色い馬”の干し肉など…美味しいお肉から美味しくないお肉まで著者の正直な感想が書き綴られます。添えられた旅の仰天エピソードとゆる～いイラストがにんまり笑いを誘います。

白石 あづさ／著

新潮社

(新潮文庫)

(移動図書館司書)



エクソダス アメリカ国境の狂気と祈り

驚

母子が歩む先に壁が立ちはだかる

334.453

ベルリンの壁が崩れた1989年、3200キロに及ぶ米国とメキシコの国境に最初の壁が現れた。その壁は延び続け、より高く強固になった。それでも命懸けで国境を越える人々の奔流「エクソダス」は止まらない。パナマの密林地帯から米国国境に続く移民のルートを進む取材から浮かび上がるのは、暴力と貧困がはびこる社会への絶望感だ。国を去ることが唯一の選択肢という現実に対して、壁の建設は賢明な解決策だろうか？

村山 祐介／著

新潮社

(久世ふれあいセンター図書館司書)



へんな科学 “イグノーベル賞”研究40講

笑

笑える疑問を真面目に研究！

404

人を笑わせ、考えさせた研究に与えられる「イグノーベル賞」。日本人はユーモアたっぷりの研究で受賞の常連です。この本では世界中の40の真面目な？研究が載っています。中には京都の天橋立で観光客の定番となっている股のぞきに関する研究や、玉ねぎが目にしみる理由についての研究など、身近なものもあります。どの研究も意外な発見があり、読んでクスッと笑えるおすすめの一冊です。

五十嵐 杏南／著

総合法令出版

(醍醐中央図書館司書)



バッタを倒しにアフリカへ

驚

夢はバッタに食べられること!?

486.45

研究室でのバッタ飼育実験の毎日から一念発起、フィールドワークのため単身モーリタニアのサハラ砂漠へ。深刻なサバクトビバッタの被害から農作物を守り、昆虫学者になるべく人生を賭けた著者の奮闘記です。
砂漠での生活や現地の人々のエピソードも興味深く、コロナ禍で見落とされがちなおもしろい問題を知るきっかけにもなる一冊です。

前野ウルド浩太郎／著
光文社
(光文社新書)

(コミュニティプラザ深草図書館司書)



ゼロからトースターを作ってみた結果

驚

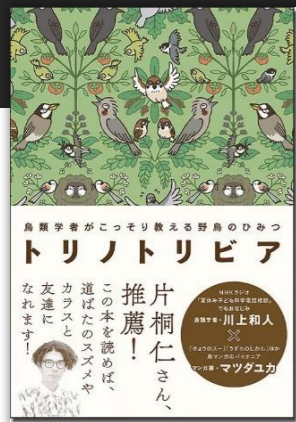
トースターって作れるの!?

500

おうち時間を過ごす中、これまで気にならなかった家の中の物にも興味が向いて、この本を手に取りました。この本は、著者がトースター製作を試みた研究の成果です。研究と聞くとカタいけど、素材集めで山へ鉄鉱石を求めに行ったり、じゃがいもからプラスチックを作ったり、おもしろく経過が描かれます。はたして、無事にトースターは完成できたのか…?

トーマス・トウェイツ／著
村井 理子／訳
新潮社 (新潮文庫)

(中央図書館司書)



トリノトリビア 鳥類学者がこっそり教える野鳥のひみつ

驚

よく見るあの鳥どんな鳥?

488.04

おうち時間が増え、よく目にするようになった一つが窓の向こうの鳥。そんな鳥の生態に関する豆知識がギュッと詰まった一冊です。体の汚れたスズメは砂風呂に入る!? ミズクのみみは耳じゃない!? ツバメは 5000km もの旅をして日本にやってくる!? など、あっと驚く鳥のヒミツがいっぱい。
私たちの生活に身近な鳥の世界を、ユーモアのセンスが光る四コマ漫画とともにわかりやすく紹介しています。

川上 和人／監修
マツダ ユカ/マンガ, 川上 和人/[ほか]著
西東社

(醍醐図書館司書)



喰ったらヤバいいきもの

笑

安全な食事は偉大な先人のお陰

664.6

おうち時間。どうせなら美味しい物が食べたいというごくありふれた欲求から、私の知的好奇心は食に向いた。レシピ本、ガイド本、グルメエッセイ…。しかしどこで道が逸れたのだろう、デンキウナギやオオマリコケムシの味を知る機会なんて、この本を読まない限りおとずれなかっただろう。
あらためて本を読む事で世界は広がり、未知のグルメ体験に思いを馳せる事が出来るという事を実感した。

平坂 寛／著
主婦と生活社

(コミュニティプラザ深草図書館司書)



日本の美しい色の鳥

笑

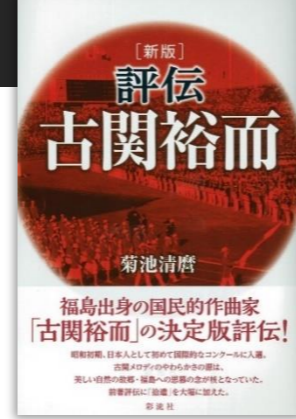
しみじみと美しい

488.21

通勤途中、民家の玄関先の植木にみかんの輪切りが刺さっていた。やって来るメジロのためである。日本の鳥はどんなにカラフルなものでも、ちゃんと日本の風景に馴染んでいる。この本を見ていると鳥と風景が絵画のように美しい。実際に枝の間から覗いたヒヨドリやツバメの愛らしさに心が和む。日常にそんな楽しい気持ちを持たせてくれた一冊である。

上田 恵介／監修
大橋 弘一／解説
エクスナレッジ

(洛西図書館司書)



評伝古関裕而 新版

驚

この人がいたからあの歌がある

762.1

聞き覚えのあるメロディーを何気なく口ずさんでいても、その曲を作った人のことまで考えることは滅多にない。けれど、ドラマやスポーツや様々なシーンで長年使用され、誰もが聞いたことのある数々の名曲が、あれもこれも同じ作曲家だったと知った時、その人物への畏敬の念を抱かずにはいられない衝撃だった。
朝ドラ「エール」のモデルにもなった、日本の音楽史に多大な貢献をした作曲家の伝記。

菊池 清磨／著
彩流社

(南図書館司書)



わたしの外国語漂流記 未知なる言葉と格闘した25人の物語

驚

出発！言葉の旅へ 807

世界には、何千という言語があるそうです。コロナで自由に海外に行けないならば、本で言葉の旅に出てみようと思い、手に取りました。英語、スペイン語、ロシア語、プナン語、アイスランド語、アムハラ語…。様々な外国語に挑戦した25名の著者が、なぜその言語と出会ったのか、どのようにして勉強したのかについて、語っています。ただし、私はこの本を読んで、ますます現地に行きたくなっていました！

河出書房新社／編
阿部 賢一／[ほか]著
河出書房新社

(洛西図書館司書)



猫のお告げは樹の下で

泣

あなたはお告げって信じますか？ 913.6

家族のこと、進路のことなど、さまざまな悩みを抱えた人たちにお告げをくれる、不思議な猫のミクジ。ミクジは、お告げのことばをタラヨウの葉っぱに書いて授けてくれますが、書かれてある文字はその人にしか見えず、意味のはっきりとしないものばかりで…。授けられたお告げの本当の意味に気づいたとき、思わず涙が出そうになる、心温まるお話です。

青山 美智子／著
宝島社

(左京図書館司書)



知っておくと役立つ街の変な日本語

笑

街中の“変な”日本語が大集合! 810.4

国語辞典編纂者の著者が街で見つけたちょっと不思議なことば＝“変な”日本語を紹介。例えば、屋台で見かける白くてふわふわとしたお菓子の看板。あなたは「わたがし」を思い浮かべますか？それとも「わたあめ」？著者によると、わたがしは西日本、わたあめは東日本に多いそうです。

この本を読めば、街の看板が気になるはず。遠くに行けない今だからこそ、近所の“変な”日本語を散歩しながら探してみてもいいかもしれません。

飯間 浩明／著
朝日新聞出版
(朝日新書)

(岩倉図書館司書)



私と鰐と妹の部屋

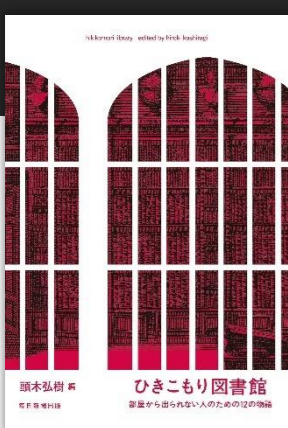
笑

ありえない、でもよく知っている 913.6

右目からビームが出て止まらなくなったり、電車の中でママがムキムキになったり、フランクなこっくりさんと70年暮らしたり。日常では決して出会うことのない奇妙な光景のはずなのに、なぜだか一度は目にしたことがあると思込めるような話ばかりが繰り広げられます。たった数ページの物語たちはどれもが可笑しくて突拍子もないけれど、真剣さに満ちていて、読んだ後は不思議と切ない気持ちにもなる一冊です。

大前 栗生／著
書肆侃侃房

(西京図書館司書)



ひきこもり図書館 部屋から出られない人のための12の物語

驚

インパクト大！ 908

コロナ禍で、外出がままならない今あえて読んでみました。かつて引きこもりを経験した編者が選んだ短編集。どのお話も印象的ですが、なかでも『私の女の実』と『フランケンシュタインの方程式』は、著者の違う作品も読んでみたいと思わせるほど、その世界に引き込まれ、読まされるお話でした。インパクトが強く、読後しばらく茫然としてしまいました。

頭木 弘樹／編
毎日新聞出版

(右京中央図書館司書)



図南の翼

泣

年に一度は読み返すヘビロテ本 913.6

王と麒麟が国を統べる異世界ファンタジー「十二国記」というシリーズの中の1冊。王がいなくなり荒廃しているのに、周りの大人は口ばかりで何もしない。そのことに苛立つ主人公の珠晶は、無謀にも自分が王の器かどうか確認するため、一人で麒麟のいる蓬山へ向かいます。その冒険はハラハラし、また作中の珠晶の言葉と行動にはとても心を打たれます。珠晶のように強い意志を持てる人に憧れます。

小野 不由美／著
新潮社
(新潮文庫)

(西京図書館司書)



紙の月

泣

人生のはかなさが凝縮された1冊

913.6

ふとした出来心から、勤務先の銀行で顧客のお金に手を付けた梨花。最初は少額だったが、どんどんエスカレートし、その金額はどんどん膨らんでゆく。ついには、梨花は1億円の横領で指名手配される。恵まれた環境で育ち、生真面目すぎる生き方をしてきた梨花の目を通して、ささやかな人生の幸福や喜びが語られる。コロナ禍、この本を読んで人生の転落とは、いともたやすいことかと考えさせられた。人生のはかなさを味わってください。

角田 光代／著
角川春樹事務所

(久世ふれあいセンター図書館司書)



ソウルメイト

泣

いつもあなたの笑顔を見ていたい

913.6

大中小・和洋さまざまな7種の犬と彼らを取りまく人間たちの、7つの短編が収められています。登場する犬たちは辛い過去を持つ子もいますが、みなそれぞれ大切な家族に出会い暮らせることに嬉しくなり、人間よりもずっと短い彼らの生の時間を幸せに、どの子も笑顔で過ごせますようにと温かい気持ちになりました。作者の犬たちへの温かい想いが作品のすみずみにまで満ちているのを感じられます。

馳 星周／著
集英社

(向島図書館司書)



あと十五秒で死ぬ

驚

15秒で死ぬ、驚きのミステリー

913.6

たった15秒、されど15秒。"15秒後に死ぬ"という一風変わった設定で展開する4つのストーリーが収録されています。それぞれがとてもユニークな内容で、中でも「首が取れても15秒間だけは生きていられる特異体質の人々が住む島で起こる殺人事件」という作品が奇想天外で、印象的でした。よくこんな設定を思いつけるものだと、ただただ驚かされる新感覚ミステリーです。

榊林 銘／著
東京創元社
(ミステリ・フロンティア)

(下京図書館司書)



旅屋おかえり

泣

どんな旅がご希望ですか？

913.6

コロナ禍の今、我慢している事の一つに旅行がある。そんな中、ちょっと変わったタイトルの本が目にとまった。『旅屋おかえり』…旅館の名前？と思いきや、依頼人の代わりに旅をする「旅代理人」の事だった。行きたくても行けない事情を持った人達の想いを抱えて、旅番組のレポーターを首になった元アイドル「おかえり」が旅をする。「おかえり」の一言に込められた想いに、心があたたかくなる旅の物語です。

原田 マハ／著
集英社
(集英社文庫)

(南図書館司書)



そして、バトンは渡された

泣

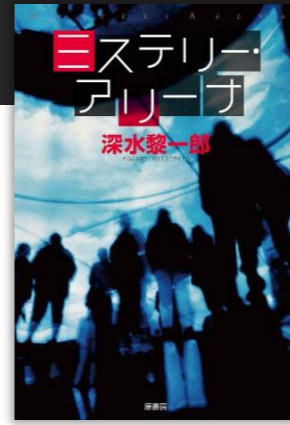
純粋な涙が自然にこぼれてくる

913.6

4回苗字が変わり、今は義父の森宮さんと暮らす優子の物語。優子の気持ちになって物語を読むのは勿論、親側にも感情移入してしまいます。どんな形であれ、家族の絆、愛情は偉大だと気づかされます。『親になってから明日が二つになった。自分の未来と、自分よりたくさんの可能性と未来を含んだ明日がやってくる』という森宮さんの言葉にさらりとした涙が流れてきますが、そのままゆるやかな文章を読み進めていってください。

瀬尾 まいこ／著
文藝春秋

(下京図書館司書)



ミステリー・アリーナ

笑

あっさりミステリに飽きた人向け

913.6

閉ざされた館で起きた不可解な殺人事件の真相は？絶大な人気を誇る謎解きTV番組「推理闘技場(ミステリー・アリーナ)」の出演者はミステリ読みのプロたち。番組内で読み上げられる推理小説の犯人を当てられたらなんと賞金20億円！出演者はそれぞれ自信に満ちた推理を披露していきますが…。クセが強い登場人物と立て続けに巻き起こる奇想天外な展開は「濃い」と言わざるを得ません。笑ったり驚いたり忙しい作品です。

深水 黎一郎／著
原書房

(向島図書館司書)



俠飯 (おとこめし) [1]

驚

いつも最後は驚きの展開

913.6

ヤクザの組長・柳刃竜一は無口なコワモテだが、料理のこととなると饒舌。毎回かかわった迷える若者たちを、偶然か必然か「叱咤」と「美味飯」で前向きにさせていきます。薄めの文庫はサクッと読めて後味スッキリ。シリーズは今夏で7作目が登場。1作目で柳刃の秘密に気づいてからは、きっと続編を読むたびにニヤニヤしながら勧善懲悪のストーリーを楽しめることでしょう。

福澤 徹三／著
文藝春秋
(文春文庫)

(山科図書館司書)



月とコーヒー

笑

静かな夜をいろどる 24 の物語

913.6

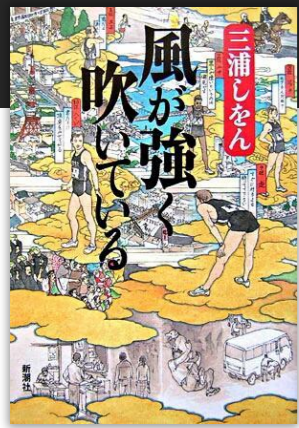
どのお話も、穏やかで、優しく、温かくて、美味しそう…寝る前に読むのがおすすめの、一日の終わりに笑顔になれる短編集。

少し不思議なお話に、想像力がふくらんで、続きに思いを巡らせるのも楽しい。あまりにも余韻が心地よくて、ゆっくり大切に読みました。

月とコーヒーは、生きていくために必要ではないかもしれないけれど、繰り返しの日常の中で安らぎを与えてくれるもの。あなたにとっての「月とコーヒー」は何ですか？

吉田 篤弘／著
徳間書店

(こどもみらい館子育て図書館司書)



風が強く吹いている

泣

襷が繋ぐ友情と信頼

913.6

どこにも行けないお正月、箱根駅伝を見た後に読みました。無名校の10人が箱根を目指す物語です。10人それぞれの思いを抱えながら、苦しい練習を乗り越えて本選の切符を手にします。「長距離走者に対する一番の誉め言葉は何か」の問いにハイジは速さではなく強さだと言います。後半、それを体現させる10人の走りに涙が止まりません。いつか箱根に行って体感したいと思いました。

三浦 しをん／著
新潮社

(右京中央図書館司書)



永遠のおでかけ

泣

「大切な人の死」の先にある未来

914.6

「永遠のおでかけ」に出かけてしまった大切な人。もう二度と帰ってこない。けれども、私はその人がこの世に「いた」ことを知っている。それだけでいい。「会いたい」と言葉にすると、「寂しい」気持ちになるように、いつも言葉と共に感情がやってくる。しかし言葉は、悲しみの先にある未来も連れてきてくれる。悲しいことばかりではない。暗くて不安な日々の中でも、相手を想う心を持つことの大切さに気付かせてくれる一冊です。

益田 ミリ／著
毎日新聞出版

(醍醐図書館司書)



ターミナルタウン

笑

町興しを通して得る、勇気と希望

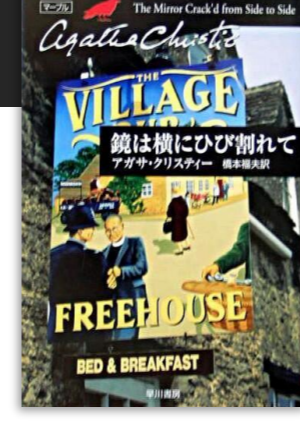
913.6

かつては主要鉄道のターミナルタウンとして栄えた静原町。現在は通過駅に成り下がり、寂れた町になっている。そこへ外から一人の若者がやって来たことで、町中だけでなく政治的陰謀をも巻き込んだ町興しが始まる。

変わることを諦め現状に甘んじていた人々が、町興しを通して様々な形で前へと進んでいきます。想いの強さと行動は何かを変えることができる。そんな勇気と希望を与えてくれる物語です。

三崎 亜記／著
文藝春秋

(北図書館司書)



鏡は横にひび割れて

怒

姫は嘆きぬ。「嗚呼、呪が我に」

933.7

華やかな映画界のパーティーで一人の女が殺された。大女優の身代わりに、毒杯を受けて一。ミス・マーブルものはキャラクターの造形が見事！俳優たち、映画監督、女流写真家、養子、医者、田舎の主婦…。誰が、誰に、どんな殺意を？…たった一つの無邪気な行いが、未来に及ぼす結果の残酷さに愕然とするラスト。様々な人生は交わり、運命は変わる。自分一人だけで生きる事は不可能なのだ、コロナ禍に考えさせられたミステリです。

アガサ・クリスティー／著
橋本 福夫／訳
早川書房 (ハヤカワ文庫)

(北図書館司書)



レモンの図書室

驚

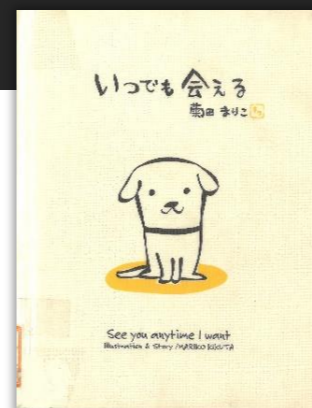
少女が知る本当の強さとは？

933.7

たよりになるのは自分の強い心だけー。幼児期に母親を病気で亡くし、校正者である父親にそう言って育てられた少女カリプソ。カリプソは精神状態を病んだ父親の世話を自分がしていることに全く気づかず、辛い毎日を送っていました。同じ感性を持つ本好きの友人とその家族に出会うことによって、あらゆる困難と向き合い、人とのつながりの大切さに気づきます。現在、社会問題となっているヤングケアラーを取り上げた一冊です。

ジョー・コットリル／作
杉田 七重／訳
小学館

(左京図書館司書)



いつでも会える

泣

あなたの愛しいものたちへ

E

みきちゃんと犬のシロは、大の仲良し。ご飯を食べるのも、遊ぶのもいつでも一緒。ある日、突然みきちゃんは亡くなってしまいます。犬のシロには理解し難いことです。「そばにいるよ。いつでも会える。今もこれからもずっと、かわらない。」みきちゃんに会えないシロの悲しみ、とても切なくてページをめくる度に涙がこぼれます。思わず愛しいものをギュッと抱きしめたくなるそんな一冊です。

菊田 まりこ／著
学研

(山科図書館司書)



ぬすまれた宝物

泣

「きみとぼくだけの秘密だよ」

933.7

クマのバジル王の宝物殿から宝物がなくなった！見張り役の主任である、ガチョウのガーウェインは、親しかったはずの国中の人から疑われ、裁判の場から逃亡します。無実の罪に問われた彼が、みんなを許すことができたきっかけは、心から悔いた真犯人である友達の、あたたかな手のぬくもりでした。コロナ禍において、薄れがちな人間関係の大切さを、再確認させてくれる作品です。

ウィリアム・スタイグ／作
金子 メロン／訳
評論社

(岩倉図書館司書)



それしかないわけないでしょう

笑

未来は希望に満ちている

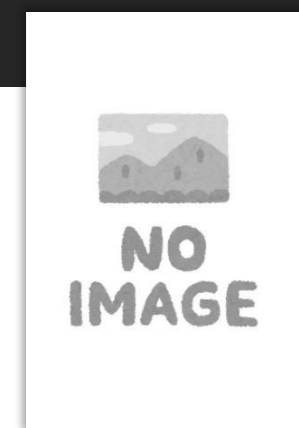
E

お兄ちゃんから、「みらいのせいかいはたいへんなことばかり」と聞いて悩む主人公。おばあちゃんに相談すると…「だーいじょうぶよ！」だって。おもしろいこともたくさんあるんだよ、と教えられて、大変かもしれない未来を「それしかないわけないでしょう」と発想の転換をして楽しむ主人公。

こんな時世だからこそ、「それしかないわけないでしょう！」と身の回りを振り返ってみてはいかが？

ヨシタケ シンスケ／著
白泉社

(東山図書館司書)



OF MICE AND MEN (はつかねずみと人間)

怒

スタインベックの洋書に挑戦

933.7

頭の回転が悪い大男のレニーと、そんなレニーをブツブツいいながらも世話をやくジョージは、仕事を求め新しい土地へ。ジョージの忠告にもかかわらず大事件を起こしたレニー。純粋で、心の底から、ジョージを信頼するレニーの気持ちに、優しく言葉をかけ夢の楽園に導いてやるジョージ。二人の心と言葉の優しさに包まれながら、思いがけない結末を迎える。

JOHN STEINBECK／著
Penguin Books

(久我のもり図書館司書)



わたしのげぼく

泣

かわいい猫の心の中は…？

E

“わたし”とは主人公の猫のこと。かっこよくて、かしこくて、すばやいのが自慢で、飼い主の男の子をげぼくと呼びます。

どんくさいげぼくに呆れつつも、げぼくに一生懸命世話をされる“わたし”が幸せそうで、そのふてぶてしくも憎めない態度にくすりとしてしまいます。しかし月日は経ち、彼らに別れの時が訪れてしまうのです…。

生き物との別れは辛く、寂しいものですが、それ以上に愛おしさで涙が止まらなくなる作品です。

上野 そら／作
くまくら 珠美／絵
アルファポリス

(中央図書館司書)